

# あいあいあい I eye 愛

2026 年  
6 月号



## 天童の風に咲くりんごの花と組合員の笑顔

理事 鈴木 真奈美

5月2日、天童トライりんごの活動が行われ、強風に花びらが舞うりんご園地に組合員の姿がありました。美味しいりんご作りのために密集して咲く余分な花を摘む「花摘み」は、地道な手作業です。飽きてしまった小さな子が、生産者に誘われて堆肥の山の中からカブトムシの幼虫を探します。「すごい！いっぱいいるよ！」「傷つけちゃうよ、もっと優しく掘って！」「わ、やだ気持ち悪い(笑)」大人たちも集まって、いつの間にか幼虫観察会。広い青空に吸われていく笑い声を聞きながら、取り組みスタートから『13年目』となる天童の空気を、担当理事として嬉しく味わっていました。

この活動は、ネオニコチノイド系農薬不使用でりんごを栽培するリスクを背負う生産者を、組合員が出資金で支えるというもの。途中で挫折も経験し、現在のオーナー制は4年目です。これまで多くの組合員が交流や学習のため天童の園地を訪れました。解放感いっぱいのにんご園、天童の生産者の温かな人柄に、参加者は笑顔の時間を過ごします。

もちろん生産者は笑顔の日ばかりではありません。この日も「開花後に霜が降りて被害が出ています」と、枯れた花を手で説明があり、参加組合員は自然の中の農業の難しさを、ほんの1ミリかも知れませんが知ることとなりました。注文書を出したら配送で届くあの甘いりんごは、当たり前ではない。土と太陽と、雨と風と虫たちと、ここで暮らしを営む生産者の力で私たちは食べているのだと、現場に立って初めて深く自分に染み渡ります。「今日も楽しかったね」と笑顔で園地を後にする組合員とその子供たちが、「食」に向き合い、喜びと感謝を胸いっぱい湛えたなら、農畜水産業の未来は少し明るくなるような気がします。

今年も農家に厳しい夏がやってきます。そんな中でも「食べる人」の笑顔は「作る人」を励まし、一緒に手を動かす時間は互いの絆を強くします。さあ、生産者との交流と、現場での実体験をたくさん積み重ねましょう。

### CONTENTS

- |                     |    |                |      |                        |    |
|---------------------|----|----------------|------|------------------------|----|
| ▶「手に魂を込め、歩いてみれば」上映会 | …2 | ▶連載「あいコープを知る」② | …4-5 | ▶子どもケミネット総会            | …7 |
| ▶七郷トライ田んぼ「田植え」      | …3 | ▶無茶々園 50 周年式典へ | …6   | ▶生産者さんにあいに行こう「夢の谷ファーム」 | …8 |

# ガザの現状から目を逸らさないでー 『手に魂を込め、歩いてみれば』 上映会開催

2023年10月以来、パレスチナでは筆舌に尽くしがたい惨状が続いています。ガザ市ではすでに7万人以上の方が犠牲となり、市民の約32%が亡くなった計算です。あまりにも非人道的なイスラエルの振る舞いに対する抗議とパレスチナへの連帯の気持ちを込め、映画上映会を開催、203名の方に参加いただきました。

映画は、破壊の続くガザを記録し続けた若きパレスチナ人写真家・ファトマと、ガザへの入国が叶わないイラン人監督の1年間のビデオ通話を紡いだドキュメンタリーです。「近くに爆弾が落ちた」「食べるものがない」「大事な家族を失った」そんなつらい現実を生きながらも、笑顔を決やさず、気丈に振る舞うファトマ。それが



パレスチナオリーブの皆川さん(中央)とオルター・トレード・ジャパンの小林さん(右)



会場で販売したパレスチナのオリーブオイルは早々に完売。注文はまんま通信で！

えつて、今のガザの悲惨さを浮き彫りにしているように感じました。重く苦しく、見た人に大きく問いかける映画で、参加者も息を詰め真剣に見入っていました。

上映後のゲストトークとして、あいこーぷにパレスチナオリーブオイルを供給しているATJ(オルター・トレード・ジャパン)社広報の小林和夫さんと、合同会社パレスチナ・オリーブ代表の皆川万葉さん(仙台市在住)を招きました。1月にパレスチナを訪問された皆川さんからは、現地の様子や、日本にいる私達にできる事などを紹介いただきました。映画をきっかけに、些細なことでも、自分のできる一歩を始める方が増える事を祈ります。

理事 櫻井 洋子

## 予告

今こそ「平和憲法」の意味を学び考える時

7月3〜4日「檻の中のライオン」講演会

5月3日の憲法記念日、「5・3憲法を活かす宮城県民集会」(主催:みやぎ9条懇話会ほか)が仙台市内で開催され、記念講演会の会場が溢れるほどの人が集まりました。政府与党が衆議院での圧倒的多数を背景に改憲議論を押し進めている今、漠然とした不安を抱えている方も多いのではないのでしょうか。

と高市首相は主張しますが、本当にそうなのでしょうか? 憲法と法律は何が違って、憲法を変えると何が起るのでしょうか?

理事会では7月3(金)〜4(土)、仙台市内2会場にて憲法学習会を開催します。憲法人門書『檻の中のライオン』を執筆された椋大樹(はんどう たいき)氏を講師に迎え、賛成・反対を言う前に「憲法って何?」「日本国憲法には何が書かれているの?」という基本的な内容をわかりやすくお話していただきます。各地で人気の講演会、どなた様もぜひご参加ください。

※講演会の詳細は5/18配布のチラシ、またはあいこーぷみやぎホームページをご覧ください。

副理事長 石井 朱里



約700名が集った5・3憲法集会(フォレスト仙台)

**檻の中のライオン 講演会 in 仙台**

学生さん大歓迎!

7月3日(金) 10:00~12:30  
会場: 宮城県民会館 401号会議室  
入場料: 1000円 学生料: 500円  
定員: 100名 申込締切: 7月1日(金) 18:00

7月4日(土) 10:00~12:30  
会場: 仙台市立中央図書館 3Fエグゼクティブホール  
入場料: 500円 学生料: 200円  
定員: 100名 申込締切: 7月2日(土) 18:00

※詳細はチラシをご覧ください。

## 《連載》2025年ビジョンをふり返る 「あんな進展・こんな成果」

01

「人」つながり

2025年ビジョンの最終年度、理事会ではビジョン委員会を設置して総括と次期中期ビジョンの策定を行ってきました。「つながり（人）・はぐくみ（食）・ゆたかに（環境）・つたえる（協同の力）」の4テーマごとに、目標はどのくらい達成できたでしょうか？現在の課題は？10回に渡って行われた検討会の様子を4回連載でお届けします。

### ■ジョイケアシステム・福祉と平和の運動（担当理事より報告）

組合員同士のたすけ合い「ジョイケアシステム」では、コロナ禍において組合員へのお見舞いBOX配布や微酸性電解水の供給を行いました。社会福祉法人みんなの輪との協業では、ジョイケア基金と組合員カンパで石けん工房の新築費用の支援を行ったほか、事業所へ



石けん工房わ・は・わの  
開所式(23.10.23)

の見学会などにも取り組みました。地域の子ども食堂への支援やフードバンクへの協力も開始しました。

平和関連では、ミャンマー内紛、ウクライナ戦争、イスラエルによるパレスチナ攻撃など、平和を脅かす様々な問題に対し、学習会や映画会、署名活動、募金活動などの形で取り組みました。

### ■検討会での意見（一部）

・ジョイケアをよく利用する人・全くしない人が分かれている。理念や意義が十分に知られていないと感じる。そもそもなぜジョイケアが生まれたのか？から周知啓発する必要があるのではないかな。

・ミートセンター見学会の参加者から、みんなの輪の利用者さんが「働かせてもらっている」ではなく「一緒に働いている」という感じですか？よかったと感想があった。

・今は戦争前夜のような感じ。知らないうちに戦争が始まっていたと知らないように、できることを考えたい。

↓次回は「はぐくみ（食）」です

副理事長 石井 朱里



## 組合員の農業体験 七郷トライ田んぼ 8年目の田植え

組合員が生産者と交流し農業体験ができる産地交流が今年もスタートしました。この日は、組合員と共に無農薬のお米に挑戦する「七郷トライ田んぼ」の田植えです。8年目となるこの企画は毎年大人気で、今年も定員を超えるお申し込みがありました。

初めての子どもたちは「ミミズいるよ」「アメンボもいた」と楽しそうに田んぼに入っています。こんな声を聴きながらの田植えはなんとも良い時間。田植えに慣れてくると、子どもたちから「苗くさくさい」と頼もしい声も聞こえてきました。



無農薬の田んぼには生き物が  
いっぱいです

1時間ほどで手植えが終了し、後半は田植え機に乗るお楽しみタイム。田植え機に乗った子どもたちは大興奮でした。現在はほとんど機械で行われる田植えを、自分の手でするという貴重な体験を通して、当たり前に食べているお米がどうやって作られているのか、生産者の苦労なども感じていただければ嬉しいです。

次は、無農薬で育てているからこそ大事な草取り作業があります。春の田植えから始まり、草取り、秋の収穫の稲刈りまでどんな体験が待っているか楽しみです。

理事 高橋 あゆみ



次々に苗を植えていく田植え  
機に子ども達も興味津々



生活協同組合

あいコープみやぎ

の仲間づくり活動

## 単なる顧客獲得？

いいえ、そうではありません

「私たちは協同の力で 人・食・環境を大切にする 持続可能な社会をつくれます」

私たちはなぜあいコープを創り、あいコープを育て、何をを目指しているのでしょうか。なぜ生協？なぜ産直？なぜ石けん？今あらためてあいコープを考える特集・第2回目のテーマは「仲間づくり」。

よい商品と一緒に利用する組合員をふやすことは、掲げた理念を実現するために欠かせません。ただの営業活動とは全く違う、あいコープの「組合員拡大」。その驚きの歴史を辿ります。

## (1) 1980～90年代前半 共同購入の「班」が担った組合員拡大

機関紙「みずばしょう」第83号  
(1991.4.5)

あいコープが「仙台共同購入会」として誕生した当初、例えば卵は3kgや5kgといった箱売りしかなく、組合員はそれを文字通り「共同購入」し、近所の数世帯で分け合いました。それが「班」です。班は注文と配送の集約元というだけでなく、組合員同士が情報交換をしたり、意見をまとめていくための基本単位として機能していました。班ごとに「班会」が開かれ、班の代表者による「ブロック会議(のちに班代表者会議に改称)」、更にいくつかのブロックがまとまって「地区委員会」が組織され、現在の委員会活動につながっています。

仲間づくり、つまり「組合員拡大」の活動も、班が中心的な役割を果たしました。91年春の拡大月間では約3か月間で806名の加入を記録し、この時期には組合員数と供給高が急激に伸びました。「班会なくしては共同購入会活動自体が成立しない(「みずばしょう」第102号1992.11.1)」と言われるほど、班は生協の運営にとって不可欠なものでした。

商品を乗せ県内を巡った展示即売車  
覚えている方もいらっしゃる吗？

■3月末から7月はじめにかけて、37回・63ヶ所で展示即売会が行われました。毎回、ポイントの設定、チラシ入れ、展即の場での商品説明、関心をもたれた人に対するフォローなどで運営委員をはじめとする組合員の紹介・協力が大きな力となっています。組合員自身による仲間づくりの活動がすすむ中で、積極的に展示即売会をリクエストしてくるブロックも多く、春の拡大期間中に応じきれなかったところもありました。(略)展示即売車だけでは拡大しにくい中央部では、マンションへの戸別訪問やコミュニティセンターを利用したの展示試食会が取り込まれました。(「みずばしょう」第87号1991.8.5)

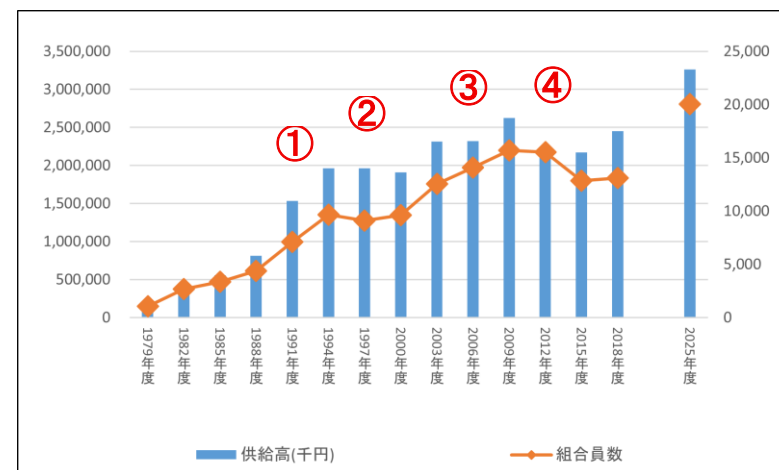
組合員から「紹介セット」を受け取った人の7割が加入した年もあったんだって！！



## (2) 90年代後半～2000年代 組合員拡大と供給高が伸び悩み、個配強化へ

女性の就業率の増加とともに在宅率が低下し、班ではなく個配(個人宅配)の需要が高まったことを受け、仲間づくり活動も変化を迫られました。職員による拡大チームが発足し、特典付きの拡大キャンペーンが始まったのもこの頃です。個配強化の方針により個配料金の値下げ(月2000円→1回250円)、卵の10個パックの導入などがありました。

2004年には本部を現在の日の出町センターに移転し、名称も「あいコープみやぎ」に改めるなど、ソフト面・ハード面ともに大きな転換を迎えることとなりました。



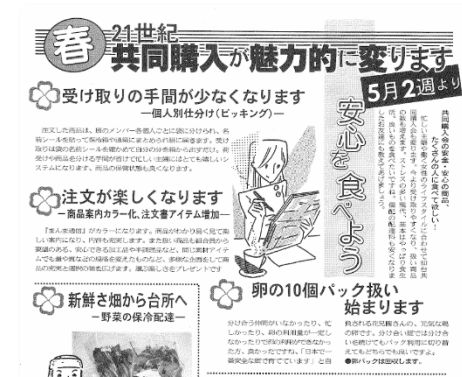
【あいコープみやぎの組合員数と供給高の推移】

①班を基礎としたきめ細かいタテの組織づくりが生きた急拡大期から、②横ばい期を経て③個配強化と拡大キャンペーンによる拡大期、④東日本大震災による打撃、そしてコロナ禍を経て現在(あいコープみやぎ40周年記念誌掲載のデータに一部加筆)

## (3) コロナ禍での対面自粛を経て、仲間づくりの現在地～結びに代えて

設立50周年を目前に控えた現在、組合員の約9割が個配を利用しています。組合員の生活は多様化し、コロナ禍では全ての組合員活動が見直しを迫られました。仲間づくりのウエイトは組合員から職員(営業課)に移り、TVCMやイベント、ウェブ広告などで成果を上げていますが、新しく加入した組合員の定着率や利用率が低いのが課題です。仲間づくりは、単に加入者を増やせばそれで良いわけではなく、組合員同士、積極的に声をかけ合ってつながりを作ることが大切なのだ改めて思います。委員会活動やイベント企画、産地応援など、多くの組合員が何らかの形でコミュニティに参加できるよう、令和の理事会も頑張っていきます。

(文責:副理事長 石井朱里)



「みずばしょう」第203号(2001.4.5)

次回(7月号)は最終回、シャボン玉月間に寄せて「あいコープの石けん運動」を特集します♪

## 4/23 GMナタネ自生調査 in 石巻港

毎年継続しているナタネ調査に、今年は九州からNon-GMOナタネ油でおなじみ、平田産業の平田社長が初参加。アーダ・ブレーンの佐藤圭社長や高橋徳治商店の高橋利彰さんも、生産者の組合員活動参加は本当に有難いことです。ところが調査ポイントは工事中で、土も植物も根こそぎなくなっていました。GMナタネの自生を防ぐのが目的なので、これでもいいはずなのですが…なんかモヤモヤ。事前に用意していたサンプルの3検体を簡易検査し、全て陰性を確認。その後、組合員・生産者・市議会議員など、それぞれの立場から意見交換をし、学び多き時間となりました。

理事 辻 朗子

生産者や議員さんらの  
関心も高いナタネ調査

## 5/16 せっけん運動ネットワーク 総会開催

協同組合石けん運動連絡会の設立から45周年を迎え、ネットワークとして12回目の総会を開催。香害やPFASなどの有害化学物質の問題にも向き合いながら、未来の子どもたちに責任ある環境をどう残していくかを共有しました。

記念講演会では「おうちでできるカラダにいい魔法の洗濯術」をテーマに、石けんでクリーニング店を営む茂木孝夫氏が実演を交え講演。石けん運動は生協運動そのものであり、世の中を変えていく運動です。ナフサ不足による石油由来の合成洗剤への懸念が高まる今、人にも環境にもやさしい石けん生活を広げていきましょう。

理事長 高橋 千佳

会場には35名が集ったほか、  
オンラインで105名が参加  
しましたわだいの  
たねまき

# 『無茶々園』50周年式典に参加

地域を作る温かな組織の姿

4月16・17日の2日間、柑橘や水産品などでもおなじみの愛媛県の産直産地、無茶々園50周年式典に参列してきました。式典には、全国の取引先や生産者の仲間、そして地元で無茶々園を支えるメーカーなど総勢200名が参加。特に、次世代の職員や地域の若者が壇上に立つて、ビジョンやミッションについて意見を交わすトークショーでは、50年先を見据えた力強い言葉から各々の決意と明るい未来像を感じることができた式典でした。夕食の懇親会では手作りの料理や地域の伝統芸能が披露され、私たちを迎え入れるためにひとつひとつ丁寧に考え、おもてなしをしてくださった産地の温かさにも心から感謝です。



斜面に広がる無茶々園のみかん畑  
遠くに海が見える

2日目は生産現場の視察を行いました。真珠の生産者が収入の安定のために、近代的な技術を学びスタートさせた青のり養殖の様子や、昨年竣工したばかりの選果場も見学。非破壊で、柑橘内部の傷みはもちろん、お届け時に発症する傷みの予兆も発見可能なセンサーを導入するなど、新しい機器が設置されており、今後の品質改善にも期待が膨らみました。  
そして2日間にわたり、会の進行や会場への案内など、てきぱきとこなす職員の方々のチームワークには感服しました。職員が自分の仕事と組織に誇りを持っていることがひしひしと伝わってきました。



無茶々園の社屋は廃校になった小学校。式典は体育館で。



懇親夕食会での鏡割り

農業生産だけではなく、漁業（ちりめん、真珠、青のり）や福祉事業など、地域全体を巻き込みながら事業を運営し、「持続可能な共同体」を実現している無茶々園。これは私たち生協の原点でもあり、果たすべき役割だと、改めて気づかされた2日間でした。

商品部 商品課長 高橋 翔



柑橘の仕分けをし出荷する選果場  
人の手だけでなく、  
特殊なカメラも使用して検査する



青のり生産者の佐藤さん

## 理事会議事録抄

2026年5月8日（金）

▼理事会規則細則（年間議案管理）の検討開始を承認した▼第38回通常総代会の進行プログラム及び役割分担を決定した▼ジョイケア決算・予算、総会資料について報告を受けた▼2026地域づくりボランティア活動補助金企画案を承認した▼「秋保発！伝統野菜・仙台芭蕉菜のたねをつなごう」企画案を承認した▼奈津子さんと話そう！わたしたちの憲法お話し会（こども憲法学習会）企画案を承認した▼組合員事務局スタッフの求人について承認した。

## 組織概要

（2026年4月分）

|          |             |
|----------|-------------|
| 【組合員数】   | 20,530名     |
| 【供給高】    | 273,389千円   |
| 【一人実利用高】 | 5,849/週     |
| 【出資金】    | 1,455,525千円 |



●現在の西岸地域の生きた状況も聞かせていただき勉強になりました。今後はオリープを見たらパレスチナのことを思い浮かべることができます。（「手に魂を込め、歩いてみれば」上映会参加者感想より）

# 始めよう！緩けよう！ 石けん生活

有害化学物質から  
子どもを守るネットワーク  
「子どもケミネット」総会



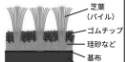
東京都内の会場に31名  
オンラインで218名が参加



人工芝の問題をわかりやすく  
解説したパンフレット  
左の二次元コードからダウン  
ロードしてご覧ください

## ちょっと待って！人工芝の導入

学校や公園、スポーツ施設などで、人工芝の導入が各地で進んでいます。人工芝は「見た目がきれい」「維持管理コストが安い」「クッション性がよいので怪我をしにくい」と良いことづくめですが、本当にそうなのでしょうか。海外では近年、人工芝化の問題がクローズアップされ、規制の動きも始まっています。いったい何が問題なのでしょう……。



理事長 高橋 千佳

4月19日、設立4年目を迎えた「子どもケミネット」の総会に参加し、あいコープのプラスチック削減の取り組みについて報告しました。あいコープでは、PFAS（有機フッ素化合物）の使用やマイクロプラスチックの大量発生源の一つとして懸念される人工芝の取り扱いを昨年度から中止しています。全国の学校や公園、競技場で人工芝化が進むなか、環境ホルモンなどの影響を懸念し、全国の仲間とともに環境省や経済産業省、文部科学省へ要望書を提出し、規制強化を求める活動を進めています。

私たちが一人ひとりがマイボトルを持ち歩くなど、できるだけプラスチックを使わない暮らしを心がけるとともに、有害化学物質の規制強化を社会に働きかけ続ける重要性を改めて感じました。

## 私のオススメ商品



私がおすすめする商品は「わはわのもっちり米粉パン」です。あいコープに入協して間もないころ、組合員の方にお裾分けしていただき初めて食べました。その

美味しさに感動したのを覚えています！米粉のもちもち感と柔らかくふわふわとした食感があり、とても美味しいです。中に色んな具材を入れて挟んだり、フレンチトーストを作ってみたりして食べています。様々なアレンジができるのでオススメです。「まいど注文」出来ますので是非ご賞味ください！

事業部 供給課 船水 百花

## 編集後記

総代会が近づき、各地区で議案書説明会が行われています。3年後に50周年を迎えるあいコープは時代とともに変化していますが、手法や表現が変わっても中心に通る芯は昔のままでいようと踏ん張っています。宇宙にも行ける時代だけど、せめてあいコープは地域の人々ができることを持ち寄って暮らすコミュニティを大切に、経済だけに目を奪われない「本当の豊かさ」を創り守りたいと、8ページの石塚さんの生き方を見て思いました。

理事 鈴木 真奈美

## 委員さん募集中！

あいコープの仲間と  
食のこと  
環境のこと  
一緒に話ませんか？

お問い合わせ先  
☎ 0120-255-044  
Fax 0120-849-324  
Email [i-kumikatsu@mamma.coop](mailto:i-kumikatsu@mamma.coop)  
(担当：組合員事務局 鈴木・太田代)



## 組合員が利用できる電話相談

お申込み・お問合せは  
ジョイケア事務局へ

☎ 0120-50-7277 平日 9:00～17:00

年金相談・・・7/14(火) 社会保険労務士 清野道子氏  
13:30～15:30

法律相談・・・7/14(火)、7/22(水) 弁護士 倉林千枝子氏  
13:30～15:30

子ども相談・・・7/23(木) 宮城教育大学准教授 特別支援教育専攻  
10:30～12:30 三科聡子氏

\*介護相談は相談日のご希望を伺います。

介護相談 (ケアプランセンター木もれび 山崎彰子氏)

▼随時受付可能です。各相談窓口前週の金曜日までに予約して下さい。▼金曜日が祝日の場合は直前の平日の受付時間まで受付します。▼予約して頂いた方には、相談日に相談員からお電話を差し上げます。

## ジョイケア利用状況 (2026年4月分)

|           |     |                 |
|-----------|-----|-----------------|
| ささえあい(保障) | 2件  | (商品の動物被害への補償など) |
| たすけあい(ケア) | 5件  | (ケア時間 合計6時間)    |
| 集団託児      | 2件  | (利用延べ人数 3名)     |
| 慶弔        | 13件 | (出産祝い9件 お悔やみ4件) |
| 電話相談      | 8件  | (キャンセル除く相談実施件数) |
| 計         | 30件 |                 |



● どの花を摘んでいいか、また霜の被害で通常であれば残す花を摘まなければならず、判断が難しいなと思いました。花摘みは小さな子供でも一緒に出来たのでいい経験となりました。(天童トライリンゴ活動参加者感想)

## 21世紀の今もブレずに守る『本当の豊かさ』 産直を育て、産直と共に育ってきた“ゆうきの里”

6月2回からまんま通信にお目見えする「ささかみの古代米」。黒米だけでなく赤や緑の粒が混じったカラフルな古代米です。JAS有機取得の古代米を育てているのは、新潟県阿賀野市「夢の谷ファーム」の石塚さん家族。広げすぎず、衰退もさせない、「ちょうどいい」量の恵みを大地からいただく農場です。



調理例

ささかみの古代米 100 g



林に挟まれた有機の棚田はまさに「夢の谷」

夢の谷ファーム副代表の石塚美津夫さんは、代々続く農家の長男。無理な圃場の拡大はせず、家族でできる広さを自分の目と手をかけて管理しています。若き日に有機に魅せられ、農協職員から専業農家へと転身。その圃場では毎年、年間登録で参加者を募る「ささかみ本気塾」という体験交流が企画され、取材した日は10名ほどが説明会に参加していました。

「みんなで田んぼで汗をかく。一見、援農活動のようだけど、目的は参加者に有機農業を通して『生き方』を教えること」とおっしゃる石塚さんは、生協産直の土台を築いた草創期の立役者でもあります。

「ささかみ本気塾」の説明会で必ず行われるのは、石塚さんが平成20年に田んぼの畦に建てた「糸蚯蚓(いとみみず)神社」の例大祭です。有機の冬水田んぼは生き物の宝庫。土を良くしてくれるイトミミズに感謝して由緒正しき神社から遷宮したそうで「環境を汚す人間よりイトミミズのほうがずっと偉い」と自然への畏敬の念を持ち守っています。あいコープを代表して、本気塾の参加者の皆さんと共に、玉串を奉納し豊作を祈願してきました。



杉の木の根元に建立された「糸蚯蚓(イトミミズ)神社」

パワーショベルで  
ぼかし肥を切り返す石塚さん

取材に応じる石塚さん(左)

田んぼのはずれの堆肥舎には、米ぬかやもみ殻をBMW技術を用いて発酵させたぼかし肥。すぐ傍で平飼いの鶏が走り回り、柵を超え脱走(笑)。鶏を捕まえて鶏舎に戻し、やれやれと腰を伸ばして「どうだい、これが本当の豊かさですよ」と振り返る石塚さんのエネルギー溢れる表情は、生き方を教わるにふさわしい“百姓”の顔でした。

こうした生産者と直接言葉を交わし、「本当の豊かさ」を共有しながら購入する“産直”は生協の原点です。色とりどりの「ささかみの古代米」を混ぜて炊いた、ほんのり桃色のごはんを頬張りながら、新潟は阿賀野の冬水田んぼを想像してみませんか？

### 今後の予定

6/25 木

#### 第38回通常総代会

場所／エル・パーク仙台 6F ギャラリーホール  
時間／10:00～12:30  
2026年度総代以外で傍聴希望の方は、あいコープみやぎコールセンターまでお電話ください。

7/3 金

7/4 土

#### 檻の中のライオン 榎 大樹氏講演会

場所／7/3 東京エレクトロンホール宮城 401 中会議室  
7/4 日立システムズホール 3F エッグホール  
時間／10:00～12:30  
参加費／大人 1000 円 高校生以下無料  
※詳しくはあいコープ公式HP イベントカレンダー  
または既に配布のチラシをご覧ください

7/10 金

#### 石けん環境委員会主催 くらしの中の危険 気になるものを総チェック

場所／中小企業活性化センター 6F セミナールーム(1)  
時間／10:00～12:00  
定員／50名(応募多数の場合抽選) 参加費／無料  
締め切り／6月26日

あいコープみやぎは女川原発の稼働停止と核燃料の乾式貯蔵施設建設中止を求めます

#### 女川原発の再・再稼働から

2024年10月29日再稼働し  
不具合による停止を経て11月  
13日に再稼働しています

566 日目

停止を  
早く

2026年6月1日現在